

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人富山県文化振興財団	
施設名	富山県利賀芸術公園	
内定額	19,218	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		359	360
年間事業本数（※1）	主催事業	8	7
	公演事業	4	3
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	人材養成事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	1
	普及啓発事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	2
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0
	ホール名： 利賀山房 座席数： 150		
	ホール名： 野外劇場 座席数： 550		
	ホール名： 新利賀山房 座席数： 150		
	ホール名： 岩舞台 座席数： 200		
	ホール名： 利賀創造交流館練習ホール 座席数： 100		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	3,113	2,671
	公演事業	2,802	2,369
	人材養成事業	89	87
	普及啓発事業	222	215
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数		
	その他 内容： 共催事業入場者数及び劇団SCOTや日本博参加劇団員数	3,329	3,748
	計	6,442	6,419
施設の利用率(%)		92.0%	93.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	14	2,802	95.0%	3			1			
	共催・提携公演（※2）	4	16	3,220		3		1				
	貸館公演（※3）											
	計	8	30	6,022								
令和6年度	主催公演（※1）	3	7	2,369	94.7%	2			1			
	共催・提携公演（※2）	3	22	3,476		3						
	貸館公演（※3）											
	計	6	29	5,845								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における評価項目「創造性・企画性」に関する評

- ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

[illegible]

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①「SCOT倶楽部」会友登録数	①前年度より400名増で、1万人を超えることを目指す。	①763名増で、10394名となった。	平成25年度より、劇団SCOTは会友制度「SCOT倶楽部」を運営しており、利賀での公演では入場料金を設定せず、活動自体を社会事業として応援する気持ちを会友から「お志」としていただく形をとっている。令和6年度の登録者は736名増加し、目標を大きく達成した。要因として、翌令和7年が劇団SCOTが利賀で活動を始めて50年の記念年であることを大きく打ち出したことが考えられる。		
	②観客満足度	②全公演事業で、必須データで定めた観客満足度の目標を達成。	②「富山県の高校生による郷土芸能発表会」の満足度の目標を90%以上と設定し89.5%とわずかに達成しなかったが、「SCOTサマー・シーズン2024」「SCOTウインター・シーズン2024」ではそれぞれの満足度が82%、100%であり、満足度80%以上という目標を達成できた。	国際演劇評論家協会日本センター会長である本橋哲也氏は、SCOTの活動を高く評価し、2024年12月に月曜社より刊行された「鈴木忠志の演劇―騙る身体と利賀の思想」では、代表作品を身体(演技)、言語(戯曲)、集団(劇団)、空間(劇場)、思想(歴史)というテーマのもとに詳細に分析している。特に本書の第7章において、演出家を持つユニークで透徹したドラマトウルギー、共通の身体文法と生活様式の共有、それを支える地域共同体という3つの点から、SCOTが「世界水準の劇団として歴史に残る集団」と評している。 観客のSNSでは、「一度は行きたいと思っていたので、夢が叶った」「すごい経験ができた。来年も絶対に行きたい」「客席が国際色豊か」「火花や大自然に負けないくらい鍛えられた、俳優の声と存在感がすごい」などの声があった。		
	③レジデント・カンパニー(劇団SCOT)の活動への評価	③専門家による劇評、観客のSNSで概ね高評価を得る。	③本橋哲也氏著「鈴木忠志の演劇―騙る身体と利賀の思想」が刊行された。 観客のSNSで高評価を得た。			
人材養成事業	①応募者数	①募集定員の8割を達成する。富山県高等学校演劇研究協議会加盟校の7割(11校)からの参加を達成する。	①11校から63名の参加があり目標を達成した。	高校生夏期演劇講習会において、当初の目標としていた11校からの参加を達成することができた。県内の2～3年生の高校演劇部に所属する生徒の68%が参加し(92人中63名)、利賀芸術公園での劇団SCOTの活動の様子や特色のある劇場群を知ってもらえる機会となった。海外の俳優との共同制作(稽古)も見学してもらった。		
	②参加者の研修後の反応	②参加者の感想文で、80%以上から高評価を得る。	②「ただ単に土地を生かすのではなくどうしたら観客と一体感を味わえるか考えて作られているのがすごい」「すごい迫力の訓練だった」など高評価な感想が97%あり、高評価80%以上目標を達成した。	高校生の参加者からは、「こんな山奥にすごい劇場があることに驚いた」「たくさんの海外の人がスズキ・トレーニング・メソッドを学びに来ていることに感動した」「スズキ・トレーニング・メソッドで上半身が動かないことに衝撃を受けた。すごい訓練だと思った」などの感想が寄せられた。		
	③顧問による評価	③終了後の聞き取りで、概ね高評価を得る。	③顧問の先生方からは、おおむね高評価であった。	また、顧問からは、「講習会で、丁寧に発声のコツや相手に伝えることの大切さなどを教えてもらい大変勉強になった」「講師の方に丁寧に教えてもらえることや他校の生徒の考え方に触れることで、ものすごく生徒の成長がみられる。今後も続けて欲しい」「バスでの移動時間がかかるのが問題ではあるが、利賀に来て劇団SCOTの訓練を観られることは大変ありがたい」との声があった。来年度に向けて、顧問の先生方からの要望を取り入れながら、より良い演劇講習会を開催できるよう努めていく。		
普及啓発事業	①全事業の参加者数	①全事業で、募集定員の9割を達成する。	①舞台芸術鑑賞会の応募者は募集定員を超えたため抽選を行ったが、当日は台風の影響でキャンセルが出てしまい、63%となった。 富山県内での出張演劇講座は、全会場で定員の90%以上の参加を達成した。	舞台芸術鑑賞会において、応募段階での参加者は当初の目標を達成することができた。しかし、例年天候等の影響により当日までにキャンセルが発生するため、次年度からは抽選時に参加者を多めに選ぶ等の工夫が必要だと考える。		
	②「富山県内での出張演劇講座」の波及効果	②参加者のうち、公演事業「SCOTサマー・シーズン2024」へ50人が来場することを目指す。	②50人以上の来場を達成した。	富山県内での出張演劇講座で舞台芸術鑑賞会の案内をしたこともあり、黒部市や高岡市からの参加申込みが例年より増え、相互の事業間でよい連携ができています。		
	③参加者の反応	③アンケート回答者の80%以上が「たいへん良い」「良い」と回答。	③舞台芸術鑑賞会のアンケートで、86.5%以上が「たいへん良い」「良い」と回答。	南砺市で実施している「緑の里講座」で出張演劇講座を実施したことにより、観劇ツアーの企画が実現し、40人が参加した。そのほかにD&DEPARTMENTの講座参加者などを含め、合計50人以上を達成した。 舞台芸術鑑賞会は、質の高い観劇体験と、送迎バスや解説文の配布などの鑑賞サポートによって、人気の事業となっている。抽選に外れてしまった方や過去の参加者が、その後自ら観劇に訪れるケースも多く、観客の掘り起こしができている。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

利賀が「演劇の聖地」と呼ばれる最も大きな理由は、拠点として長年活動してきた鈴木忠志氏の演劇理念そのものが多くの人々を惹きつけていることだといえる。 国内外、他分野に大きな影響力を持つレジデント・アーティストを要していることこそ、他の劇場にない利賀芸術公園の最大の特徴である。 以下、直近でその発信力、影響力がうかがえたエピソードをまとめる。波及効果は大きく、一時的にSCOT公式サイトへのアクセス数が増加したり、SCOT倶楽部会友登録者数増加にも繋がっている。 ・令和6年9月に、日本経済新聞「私の履歴書」で鈴木忠志氏の連載(全29回)があったことで、演劇関係者以外からも多くの反響があった。 ・令和7年3月に、東京経済大学で講演会を開催(主催:東京経済大学「鈴木忠志氏講演会」実行委員会)、会場は満席となった。 ・インターネット上で、海外の大学で教授に「日本でカブキとスズキを生で観てみたい」と言われたというポストが話題になった。 鈴木忠志氏が創設した「スズキ・トレーニング・メソッド」は、海外の多くの演劇教育機関でも取り入れられている俳優訓練法であり、海外の演劇人にとって、歌舞伎と並ぶほどに日本の舞台芸術の代表として認知されていることがわかる。 南砺市民向けの鑑賞会を1日で2公演連続鑑賞できるようにしたことで応募者が増加。定員40名のところ、80名以上から応募があった。 出張演劇講座を県内各地で行ったことにより、高岡市や射水市などから鑑賞会の申込が増えた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①多国籍の俳優による作品上演	①2作品以上を制作。	①『世界の果てからこんにちはⅠ』 『シラノ・ド・ベルジュラック』を制作。	『世界の果てからこんにちはⅠ』には、スペイン、チリ、中国の俳優、『シラノ・ド・ベルジュラック』には中国、ロシアの俳優が参加した。母語は違っていても、身体訓練法スズキ・トレーニング・メソッドを学び、利賀でSCOTの劇団員とともに過ごすことで培われる共通感覚が、唯一無二の強固な国際共同制作を可能にしている。		
②海外の観客数	②「SCOTサマー・シーズン2024」の観客数のうち10%以上を目指す。	②海外の観客は503人(5552人中)で9%となり、目標を達成できなかった。	観劇予約はしていたがビザの発給が遅れ来場できないケースがあった。コロナ以降、海外からの来場数は回復してはいるが、国際情勢の影響による困難さも見受けられた。		
③海外の観客の満足度	③アンケートの5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」)と回答した人が80%以上。	③アンケートの5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」)と回答した人が95%。	観劇予約はしていたがビザの発給が遅れ来場できないケースがあった。コロナ以降、海外からの来場数は回復してはいるが、国際情勢の影響による困難さも見受けられた。		
④海外の観客の反応	④アンケートとSNS等で、概ね高評価を得る。	④アンケートで高評価を得た。	海外の観客に行ったアンケートで、「SCOTサマー・シーズン2024の総合的な満足度を選択してください」という質問については、5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」)と回答した人が95%だった。同じく、「配布した多言語の解説は、作品の理解を深める助けになりましたか」という質問も、5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」)と回答した人が95%だった。		
⑤英語・中国語の解説や台本等の配布数	⑤200名分配布を目指す。	⑤200名分配布を達成した。	また、「どのように知って、来場しようと思いましたか(複数回答)」という質問には、「知り合い・家族から勧められて」「SCOTの公式ウェブサイトを見て」に次いで、「SCOTの公式Instagramを見て」という回答が多く、28%だった。Instagramは令和5年7月に開設し、現在フォロワー数は1,345名、うち約70%が海外のフォロワーである(Facebookの海外フォロワーは約40%)。海外に対しては、Instagramの活用が効果的であると考えられ、今後も積極的に情報発信に取り組みたい。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

昭和58年より毎年、主に海外の演劇人を対象とした「鈴木利賀演劇塾」を開催している。これは、プロの俳優や演出家が利賀に滞在し、「スズキ・トレーニング・メソッド」や鈴木忠志氏の演劇理念を学ぶトレーニング・キャンプである。 新型コロナウイルス感染拡大で一時的に海外からの参加者を受け入れられなかったが、入国規制が緩和されてからは、また世界各国から定員をはるかに超えた多くの問い合わせや応募が届いている。 リピーターも多く、また多くの応募者が過去参加者からの評判を聞いて応募していることや、一過性の体験でなく、その後母国に帰ってトレーニングを続けていく参加者が多いことから、プログラムの満足度の高さがわかる。 鈴木忠志氏の演劇理念についての書籍「CULTURE IS THE BODY」が英語、中国語、イタリア語、リトアニア語、ギリシア語、インドネシア語、ハンガリー語で出版。現在、スペイン語版と韓国語版、ロシア語版の出版準備も進んでいる。 近年、「鈴木利賀演劇塾」へのギリシアや中国からの応募が増えるなど、「CULTURE IS THE BODY」の出版が大きく影響していることがわかる。 宿泊施設や食堂など、滞在制作が可能な環境を持つ利賀では、多国籍の俳優が1ヵ月以上共同生活をおくって作品を創り上げていることで、各自自国の料理をふるまったり、互いの国の文化状況を共有するなどの交流が行われていることもユニークな特徴である。 夏の期間は、「鈴木利賀演劇塾」の参加者と「SCOTサマー・シーズン」の参加団体が同じ場所で食事をとったり、お互いの活動を見学する機会があるため、利賀インター・ゼミの講師も務める島貴之氏の拠点・金沢で、「鈴木利賀演劇塾」参加者のRamith Ramesh氏によるインド舞踊のワークショップが実現したりと新たな周辺での事業にも結びついた。
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)
※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①「SCOT倶楽部」県内在住の会友	①前年度より150名増を目指す。	①209名増加した。	増加した209名のうち、上位3市町村は富山市、南砺市、高岡市だった。人口の多い富山市、地元である南砺市に次いで、高岡市からの登録が多かった要因として、「SCOTサマー・シーズン」開催時に高岡駅・新高岡駅を発着する会場直行の連絡バスを運行していることと、高岡文化ホールで事前の出張演劇講座を行ったことが考えられる。		
②地元高校生への創造・発表機会の提供	②2回以上の機会を創設。 ・発表機会として、富山県の高校生による郷土芸能発表会を1回実施 ・創造の機会として、高校生夏期演劇講習会を1回実施 計2回を予定	②2回開催した。	高校生夏期演劇講習会は、他校の生徒や講師からいろいろなアドバイスを受けることができる。それを持ち帰ることで、富山県内高校演劇のレベルアップにつながっているという顧問の先生の声が多くよせられている。		
③シビックプライドの醸成	③アンケートで、利賀芸術公園を「地域の誇りと感じる」等の感想を60%以上から得る。	③富山県民及び南砺市民対象のアンケートの自由記載に「若い方、外国の方、いろいろな人の熱気や自由な雰囲気が良い」「こんなに多くの人がこの時期の利賀に集まっていることをこれまで知らなかった」「近年過疎化が人口減少に伴ってどんどん進んでいるが、利賀がモデルとなって若い人が田舎の良さに気づいてくれるとよい」となど、利賀芸術公園でのユニークな活動を評価する回答が多かった。 郷土芸能発表会のアンケートの自由記述では、世界水準の舞台芸術を支え、自然環境や郷土芸能を守っている地域全体をたたえる声が多数あった。	郷土芸能発表会は、SCOTの専門スタッフが照明や音響を担当し、一般的な文化ホールとは違う演劇に特化した本格的な空間のなかで開催することに特徴がある。曲のイメージに合わせた美しい照明の中で踊ることで、一人一人の動きがはっきり映しだされるため、所作をより美しくしようと気をつけるなどの気づきを与えることができた。 民謡公演の他に獅子舞の映像上演を行ったことにより富山県内にある獅子舞や民謡などの伝統的なものへ改めて誇りと継承の大切さを感じたとの感想があった。観客の90%以上から「南砺平高校の郷土芸能部の踊りが素晴らしかった」や「若い人たちが伝統を受け継いでいく姿勢が素晴らしい」との感想を受け、生徒たちだけでなく地域住民も誇りをもって伝統芸能を受け継いでいこうと改めて思う機会を提供することができた。 また、今まで「利賀芸術公園」を知らなかった人々が、実際利賀に来て、いろいろな驚きや自然も含めた良いところに気づくことによって地域の誇りを感じていると思う。芸術文化拠点として揺るぎない地位を獲得した利賀芸術公園が、その発信力を活かして地域と世界をつなぐ役割を果たしていることが、次世代にも浸透してきている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

利賀芸術公園の事業を軸に、様々な視点で魅力を感じた人々が集うことで、交流人口・関係人口増加に大きく貢献している。 特に近年は、リモートワークが主流になってきたことなどから、「二地域居住者」の増加も期待されている。 ・演劇祭のスタッフ経験をきっかけとした移住者が、現在の利賀芸術公園の食事提供業務の柱となっている。令和5年8月14日の北日本新聞にインタビューが掲載された。 ・移住体験ツアーや山村留学「南砺利賀みらい留学」のプログラムに、「SCOTサマー・シーズン」観劇が地域を紹介するにあたって欠かせないものとして組み込まれている。また、山村留学生の保護者のSCOT倶楽部への登録も増えている。 ・「SCOTサマー・シーズン」の運営に、移住スカウトサービス「SMOUT」から応募した短期アルバイトが参加している。 ・慶應義塾大学「利賀プロ」や、新たに結成した早稲田大学「WASEDA・トガムラ部」など、地域活性化に興味を持つ首都圏の学生たちが積極的に利賀を訪れて実践的に学び、地域の賑わいづくりにも参加している。 ・合掌造りの民家を劇場として改造していたり、磯崎新氏の設計であったりと、利賀芸術公園の劇場は建築界からも注目を集めている。毎年、多くの建築関係者や建築を学ぶ学生が来場している。 ・利賀の環境に魅力を感じた高岡市の建築家・吉田甫氏が敷地内にランドアートを制作。現在3作目の制作が進行している。
郷土芸能公演で、他の地区の獅子舞や民謡を観られて良かったとの声が多数あった。富山県内でも知らない人はいるので、地元の文化をしらしめる良い機会となった。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①主要駅から利賀芸術公園への連絡バス、観客・参加者の送迎バスの運行本数	①30本運行を目指す。	①54本運行で目標を達成した。	観客の利便性向上のため最寄りの駅からの連絡バスや、参加者の送迎バス、会場間のシャトルバスを運行し、観客や参加者からは好評だった。県外の観客からは「初めて来たので、新幹線の駅を降りてすぐ会場に直行できる連絡バスがあるのは安心だった」、高齢の観客からは「送迎バスがないとなかなか利賀まで来ることができないので、今後も続けて欲しい」などの意見があった。県内の観客にとっても自家用車で来るには山道の運転に不安を感じる方は多いため、居住地に関わらず非常に需要が高く、これからも実施していきたい。		
②「SCOTサマー・シーズン2024」での会場間周回シャトルバス運行本数	②100本運行を目指す。	②270本運行で目標を達成した。			
③アウトリーチ(出張演劇講座)の参加者数	③150人の参加を目指す。	③162人で目標を達成した。			
④創作環境の充実度 ・上演までの1ヶ月から1週間程度完全に貸切で、10:00～22:00までと長時間施設を使用することができ、照明や音響・舞台など必要に応じて劇場をよく知っている劇団SCOTのスタッフがアドバイスなどすることができる体制をとっている。	④参加団体からのアンケートで概ね高評価を得る。	④アンケートの「それぞれの地域に長期滞在して作品を創造するという体験について」の質問に、5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」と回答した人が93%。	「SCOTサマー・シーズン2024」の参加団体(演出家、俳優、スタッフ)にアンケートを実施。「大自然の中で、創作に集中できる環境と時間をしっかりと確保できた」「東京では絶対にできない贅沢な環境だった」「本番と同じ場所で稽古ができるのは有意義だった」と好評だった。 「お志」制度について、「SCOTサマー・シーズン2024」の観客に行ったアンケートでは、「前例や常識に縛られない考え方に感銘を受けた」「微力でも応援したい」という好意的な意見が多かった。若い世代や外国人旅行者も気兼ねなく訪れやすくなったことで、観客層が広がっている。令和6年度は、お志の件数が昨年比で増加した。50年記念に向けた期待と、制度の浸透が要因と考えられる。この制度の経緯や理念について広め、理解を深めてもらうため、多言語での案内や説明も強化していきたい。		
⑤「お志」(入場料を廃止し、活動への支援金を得る制度)の受入状況	⑤アンケートで概ね高評価を得る。	⑤アンケートの5段階評価で上位2段階(「満足」「どちらかというと満足」と回答した人が76%。			

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「SCOTサマー・シーズン2024」期間中にグルメ館で実施した観客アンケート(回収数280枚)によると、以下のような集計結果が出た。 偏りが少ないことがわかる。 年齢： 20代以下19%、30代14%、40代14%、50代16%、60代20%、70代以上16% 性別： 男性44%、女性55% 舞台芸術鑑賞会は送迎バスがあるため、特に高齢の観客にとって参加しやすく、60代以上の参加者が8割ほどを占めている。夫婦での参加者も多い。 「SCOTサマー・シーズン」では、「スズキ・トレーニング・メソッド」を学ぶ海外の演劇人や、「鈴木利賀演劇塾」の参加者有志が、受付や案内スタッフとしても活躍。 対応できる言語の数が増え、海外の観客にとっても満足度が上がっている。 「SCOTサマー・シーズン」期間中の特設フードコート「グルメ館」と本部前の総合案内所では、利賀の食材を活かした料理を探索する「とが美食倶楽部」が開発した「利賀まん」を販売。 肉を使わず、利賀豆腐と利賀村産の行者ニンニクを使用したベジタリアンメニューとして打ち出したことで外国人からの人気が高く、期間中に1,000個が完売した。 地元食材をアピールしながら、世界中から訪れる多様な食文化の観客にも対応できるメニューとして、今後も定着を目指している。 同じく「グルメ館」では、地域通訳案内士が常駐するインフォメーションブースを設置。周辺の観光情報のパンフレットなどを置いたところ、やはり金沢の人氣が高かった。 そのことから、令和7年度は金沢と協力して、海外観光客に利賀と金沢を観光できるモデルコース等をアピールするための広報計画をたてている。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

利賀芸術公園は、富山県利賀芸術公園条例で「利賀において展開され、世界的に名声を博してきた演劇活動を更に発展させることにより、舞台芸術その他の芸術文化の創造と振興に寄与する」と定められる通り、「演劇の聖地」としての国際的な評価をゆるぎないものにしてきた。

築き上げた国際性と質の高い芸術活動を持続可能なものに発展させていくために、主に以下の点をビジョンと考えて自主事業を展開できた。

・次世代の芸術の担い手・観客の育成
・世界に類を見ない施設環境と舞台作品の継承
・地域の関係人口、新しいコミュニティ創出の要

1. 公演事業
「SCOTサマー・シーズン」「SCOTウィンター・シーズン」では、利賀芸術公園の特徴である伝統ある合掌造りの民家を改築した劇場や雄大な山々を借景とした野外劇場など、世界的な建築家・磯崎新氏が設計した劇場群を活かし、ここでしか体験できない非日常空間を演出する作品を上演することができた。
「富山県の高校生による郷土芸能発表会」は、郷土芸能を継承し全国レベルで活躍する優れた高校生の活動を、地域の誇りとして発信することができた。

2. 人材養成事業
「高校生夏期演劇講習会」では、若い世代の国際性や芸術的感性を養い、世界で活躍する人材を育成することを目標として、県内の高校演劇部の生徒を対象に、長年築き上げてきた人的ネットワークを活かして、第一線で活躍する演出家やプロの俳優らを講師に迎えたワークショップを開催することができた。

3. 普及啓発事業
「富山県内での出張演劇講座」「富山県民・南砺市民を対象の舞台芸術鑑賞会」両事業を通して、まだ利賀芸術公園に来たことのない、潜在的観客を掘り起こすことを目標として、地元の人たちに文化拠点としての魅力を体験してもらうことができた。

補助対象事業については、ここまで述べた通り、概ね目標を達成してきた。

そのほか、以下に記載する補助対象事業以外でも、成果を上げることができた。

「桃太郎の会」次世代の日本の演劇人との滞在型共同制作事業
自然に囲まれ集中できる環境に滞在し、制約なく本番で使う劇場で稽古を行えるなど、作品創造を最優先とした理想的な環境で質の高い作品を上演するために、他地域の芸術監督と連携し、次世代の演出家たちが切磋琢磨できる機会をつくった。
鈴木忠志氏が設定した課題戯曲から選択することで、新たな作品と出会う機会を提供した。

「利賀インター・ゼミ」大学ゼミの研修の場
滞在研修が可能な充実した施設を、次世代の学びの場として活用。創造活動や知的交流の実例に触れながら学べる、実践的学習の場を提供することができた。
若い世代の国際性や芸術的感性を養い、世界で活躍する人材を育成することを目標として、大学の演劇サークルの学生を対象に、長年築き上げてきた人的ネットワークを活かして、第一線で活躍する演出家やプロの俳優らを講師に迎えたワークショップを開催することができた。
同時期に開催する「SCOTサマー・シーズン」の観劇もプログラムに加えた。また、運営において地域や観客と信頼関係を構築している様子を見ることで、演劇の力や地域が誇る文化の力を学んでもらうことができた。

「鈴木利賀演劇塾」国内外の演劇人がスズキ・トレーニング・メソッドを学ぶ専門教育プログラム
「スズキ・トレーニング・メソッド」の理論と実践を本格的に学べる日本で唯一の場として、国内外の演劇人を対象に専門家育成のための教育プログラムを実施した。
世界26カ国から150人もの応募があったため、初の試みとして「インターナショナル・クラス」(英語指導)、「アジア・クラス」(中国語指導)の2つのクラスを開設した。

令和7年度は、鈴木忠志氏が利賀に拠点を移して50年の記念年であり、すでに例年の10倍ほどのSCOT倶楽部会友登録申し込みが届いており(令和7年6月26日現在)、期待の高さがうかがえる。地域と連携して、アニバーサリーイヤーを盛り上げていきたい。

・ 所見